

都市再生整備計画(第5回変更)

ちりゅうえきしゅうへんちく
知立駅周辺地区

あいち ちりゅうし
愛知県 知立市

平成27年12月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	愛知県	市町村名	ちりゅう 知立市	地区名	ちりゅうまきしゅうへん 知立駅周辺地区	面積	914.7 ha				
計画期間	平成	23 年度	～	平成	27 年度	交付期間	平成	23 年度	～	平成	27 年度

目標

大目標：活力あふれる交流と賑わいのあるまちづくり

- 目標①：土地画整理事業など、中心市街地の一体的な整備を推進することにより、既存の密集市街地の防災機能の向上や生活環境の改善を図り、まちの賑わいを創造する。
- 目標②：人びとの交流の場となる公園等の公共施設の整備・改良を推進するとともに、各施設への交通機能向上を図ることにより、多世代が交流できる活力あるまちづくりを実現する。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- 知立駅周辺の中心市街地は、市民の居住の場、消費の場及び交流の場等の役割を果たし、まちの伝統や文化の情報発信基地として様々な機能を育み「まちの顔」として歴史を刻み込んできました。しかし、近年の郊外型大型店の出現、モータリーゼーションの進行及び景気の低迷等による人々の生活様式や消費行動の多様化等により、中心市街地の空洞化が今後のまちづくりの大きな問題となっています。また本地区は、名鉄名古屋本線及び三河線の2本の鉄道により地区が分断され、その中でも駅東の踏切では長時間の遮断により、著しい交通混雑が発生していました。
- 知立駅周辺は、昭和30年代に土地画整理事業を施行しているものの、当時の整備では幹線道路の幅員が11mと狭く、今日の自動車事情に対応できない状況となっていました。また、都市基盤が未整備な地域も駅前に残存しており、商業地として有効活用が図りにくい状況となっていました。
- 対象地区の外縁に国道1号、国道155号、国道23号及び国道419号が骨格を成していますが、線路や河川等により知立駅周辺部との繋がりが弱いなど、交通環境の悪さ・低さが商業機能向上の大きな阻害要因となっていると考えられます。このような背景のもと、昭和51年より鉄道の高架化の検討が進められてきました。鉄道を高架化することで、当該地区の交通環境が大きく変化することが予想され、同時に対象地区内を円滑に移動できる交通環境の改善を図ることが必要となっていました。更には、鉄道の高架化などの交通環境の改善と併せ、市民ニーズを踏まえた中心市街地の魅力を高めるため、土地利用及び施設構成の質的向上や量的拡大のほか、公共交通の利便性向上など誰もが気軽に訪れることができる交通環境を形成することが必要となっていました。
- このような状況を背景として、昭和63年に「知立連続立体交差事業促進期同盟会」が設置され市民の機運が盛り上がりつつあったことを契機に、平成9年度新規事業採択を得て、平成10年2月に都市計画決定をして、平成12年度事業認可を受け知立駅を中心とした4.3Km、踏切除去数としては10箇所の事業に着手しました。
- 交通環境の改善と併せ、中心市街地の魅力向上に向けた一体的な整備を図るため、知立駅周辺土地画整理事業(平成11年7月に事業認可)施行しており、その一部を平成18～22年度の5年間でまちづくり交付金事業を活用し進めてきました。
- 地区内の一般市道については、利便性及び安全性をより高めるため、歩道整備、路面改良、新設道路建設、橋梁の耐震補強及び道路拡幅等地元要望も取り入れて順次進めています。なお路面改良等については、第5次知立市総合計画の施策であります「交通事故のないまちづくり」で幹線市道路路面補修事業として位置づけられています。
- 地区内の公園については、整備後20年以上経過している公園も多く、安全性の低下が懸念されています。また、古くに整備した公園はユニバーサルデザインに配慮した施設の整備が少なくなっています。
- 地区内の子育て環境については、中心部に宝保育園や知立中央保育園が立地しており施設的には充実しているものの、乳児保育(0歳～2歳児)が飽和状態となっているなど、十分な子育て環境が提供できていない状況となっています。

課題

- 中心市街地などにおいて、交流・居住・防災など多様な街の機能を充実させるため、今後も、安全・安心で快適なまちづくりを支える基本的な都市基盤の整備を推進する必要がある。
- 限られた予算のなかで市民生活における利便性・安全性を向上するため、道路や公園などの既存ストックを有効に活用し、社会のニーズや市民のニーズに対応した機能の改善・充実などの「質」の向上を図る必要がある。

将来ビジョン(中長期)

(総合計画の方向性)

- 中心市街地機能の向上・・・知立連続立体交差事業や知立駅周辺土地画整理事業などの推進により、魅力と賑わいのある中心市街地の再生を図る。
- 移動しやすい道路の整備・・・交差点の改良、道路拡幅などにより、市内で発生している渋滞箇所の改善を図るとともに、道路の路面・路肩などの改修を進め、移動がしやすい道路環境をつくる。
- 歩行者の安全確保・・・歩道の設置及び改良、学校通学路の見直しも含めた安全確保策の実施により、歩車道の分離を進め、歩行者が安心して歩ける道路へ改善する。
- 誰もが活動しやすい公的空間への改善・・・誰もが円滑に利用できるように公共施設や歩道、公園などのバリアフリー化を進め、活動しやすい公的空間を整備する。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
地区内の老朽木造建築棟数率	%	対象地区内の建物全棟数のうち、昭和56年以前(旧建築基準法で建築された建物)に建築された木造建物の割合	地区内に密集した木造住宅が多いことから、老朽木造建築棟数率を確認することで、防災機能の向上効果を把握する。	31	H21	25	H27
都市公園のユニバーサルデザイン化率	%	地区内の都市公園のうち、ユニバーサルデザインによる施設を設置している割合	ユニバーサルデザイン化した施設を設置した公園の割合を確認することで、多世代が交流できる施設の快適・安心性向上の効果を把握する。	19	H21	28	H27
交通事故発生件数	件/年	知立市の統計	道路改良等の実施により交通安全性を高め、交通事故発生件数を減少させる。	2,322	H21	2,190	H27

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>■基本的な都市基盤の整備により、まちの活性化を図るため、連続立体交差事業と一体的に進められている知立駅周辺の土地区画整理事業や地区の日常的な市民生活に不可欠となっている主要市道の改良整備を推進する。</p>	<p>■基幹事業 道路／谷田町12号線道路改良事業、牛田町山屋敷2号線道路改良事業</p> <p>○関連事業 知立連続立体交差事業(知立駅周辺地区)、知立駅周辺土地区画整理事業(知立駅周辺地区)、道路改良事業(上重原町13号線)、山屋敷町3号線歩道整備事業、市道知立中央通線道路改良事業、区画整理調整池整備事業(知立山土地区画整理事業)</p>
<p>■既存の施設の質の向上を図るため、走行環境を改善するための道路面の改良や、赤ちゃんからお年寄りまでの誰もが使いやすいようバリアフリー化・ユニバーサルデザインなどの整備を推進する。</p>	<p>■基幹事業 道路／幹線市道路面緊急改良事業 公園／公園整備事業(草刈公園、新地公園、丁尻公園、新池公園、鳥居公園、茶野ふれあい広場)</p> <p>○関連事業 幹線市道路面緊急改良事業</p>
<p>その他</p>	
<p>まちづくりをする上で、市民が暮らしやすい街を目指すことは、行政の責務であります。平成9年度に事業採択を受け、平成12年度には事業認可を受けました知立連続立体交差事業を基に、中心市街地の活性化を図り、また、交通渋滞の解消等によって人々が集まることで、商業も活性化されたにぎわいのあるまちを目指している最中であります。これに加え、公共施設の耐震化及び土地区画整理事業を含めた道路整備等により、地震災害に対する安全性や交通の利便性が高まり、さらなるにぎわいが創出されることによって、安全・安心により暮らしやすくなるまちづくりをいっそう進めるものであります。</p> <p>また、安全・安心を地震防災以外にも幅広く対応することで、地区住民に、より大きな安全・安心を提供するものです。</p>	

都市再生整備計画の区域

<p>知立駅周辺地区(愛知県知立市)</p>	<p>面積 914.7 ha</p>	<p>区域 山屋敷町、桜木町、中町、中山町、山町、宝町、本町、栄、新地町、新富、池端、堀切、内幸町、東栄、新池、長田、弘栄、広見、長篠町、弘法町、西中町、谷田町本林、谷田町西、弘法、南新地、西、宝、東長篠、上重原、東上重原の全部と逢妻町、牛田町、牛田一丁目、谷田町、新林町、上重原町、西町、鳥居の一部</p>
------------------------	--------------------	--

